

(季節ごよみ) 7日(立冬)・15日(七五三祝)・22日(小雪)

(社会行事) 3日 文化の日 23日 勤労感謝の日

(地域行事) 3日(金)4日(土)5日(日) ドリームフェスタ開催:中央広場他で開催・12日浜葉祭

(L・L俳句)	神無月 出雲ばかりが 賑ひて (主水介)
	柿の色 更に深める 入日かな (たたえ)
	賑やかな 晴れ着が跳ねる 千歳飴 (益之助)



十月誕生の皆さん



《歳時記》 木の葉は色づき、今年最後の華やかさに。7日の立冬から暦の上ではもう冬。冬の気配が徐々に増し温かいものが恋しくなる季節。空気が乾燥してくるので手洗いやうがいなどで風邪の予防を。

誕生花と花言葉＝：菊：高貴、高潔、高尚

『10月例会』 日時 10月19日(木)13時30分～15時
場所 県ドリームハイツ 第一集会所
出席者 39名(男 22名 女 17名)



1. 開会宣言(中川副会長)
2. 会長挨拶・報告(鈴木会長)
・深谷保野ケアプラザの紹介
a 大正地区老人会関係
・グラウンドゴルフ大会(9/21(木)9時～ 於:踊り場公園)野間さん以下5名参加
・カラオケ大会(9/26(火)10:30 於:戸塚公会堂)萩原さん参加
・映画鑑賞会(10/31日(火)午前の部11時、午後の部2時の2回):「愛を積むひと」
b自治会関係(11月3, 4, 5 ドリームフェスタ開催、11月12日 浜葉祭)
cその他(上期監査報告)
3. 10月誕生者のお祝い(対象者:10名)
下田 忠恵さん・島津 禮子さん・三宅 清平さん・安藤 勲子さん
野間 泰治さん(傘寿)・平沢 一成さん(傘寿)・井手上 豊子さん・柳沢 愛子さん
村井 征彦さん・小林 のり子さん・(古稀)＝欠席:島津 禮子さん
<ハッピーバースデー>。ピアノ伴奏は鈴木健之さん>を2回繰り返す。
4. 新入会員:神原 信行さん(9-601)、長町 二郎さん(18-308)
5. 退会者:松沢 治実さん、瓜谷 幸子さん、林 ミヤ子さん
6. 岸田理事による「健康の話と のびのび体操」
7. 乾杯(鈴木会長)
8. 井関理事の「ワア・ハア・ハア～運動」 ♪～
9. 袖岡さんのハーモニカ演奏(横浜市歌、真白き富士の嶺演奏) ♪～
10. 萩原 恒子さんの歌(岸壁の母) ♪～
11. じゃんけんケンゲーム
12. 合唱:(歌集:横浜市歌、里の秋他2曲を歌う。 ♪～
13. 締め(中川副会長)



以上

○ 11月1日現在 会員数 75名(男 41名 女 34名)
『11月例会』 日時 11月16日(木) 13時30分～15時
場所 第1集会所
11月誕生者 7名の方に祝品を贈呈



祝『おめでとうございます!』

高橋 桂子さん・熊谷 靖子さん・早坂 信子さん
鷹野 雄一さん(卒寿)・湯本 元博さん(傘寿)・船越 幸幸さん
鈴木 笑子さん

11月の行事

役員会	14日(火)	10時30分～	第1集会所
月例会	16日(木)	13時30分～15時	第1集会所
民踊	2日(木)	13時～15時	第1集会所
書道教室	7日		
	14日(火)	15時～17時	第1集会所 洋室
カラオケ	13日(月)	14時～16時	第2集会所 洋室
	27日(水)		
	8日(水)		
ゲートボール	毎週	(月)	8時～10時 第1公園内
		(金)	
グラウンドゴルフ	毎週	(火)	8時～11時 第1公園内 ほか
		(水)	
スポーツ 吹矢	3日(金)	休み	
	9日(木)	13時～16時	第1集会所 洋室
	17日(金)	13時30分～16時	
除草清掃	24日(金)	13時～16時	
	5日(日)	07時～	第1公園内

2017 ドリームフェスタ開催!(中央広場)

作品展示会: 11月 3日(金)～4日(土)
演芸発表会: 11月5日(日)
フリーマーケット: 11月5日(日)09時30
フリーマーケットにエルエルクラブは出店します。
出店品目:清月堂「いそサブレ」・「赤飯」・
「おはぎ」・「みたらし団子」
販売益はエルエルクラブの活動資金と
なりますので是非ともご協力下さいませよう
お願い致します。

役員一同

(会員投稿) <『里の秋』ものがたり>

太平洋戦争勃発から間もない昭和16年12月下旬作詞家の『斎藤信夫』は千葉の自宅で苦悩の日々を送っていた。好きな童謡を書こうにも作品は、戦時色に彩られ、心に触れるものが出来ないのだ。 そんなある夜、ふとひらめいた。 [そうだ、慰問文形式がよい。場所は東北の片田舎、平和な家庭に召集令状がきて、父はいま戦地、囲炉裏端では、小学生の男の子が、鉛筆を舐め舐め、戦地の父への慰問文を書いている。 歌詞は< しずかな しずかな里の秋...>に始まり、男の子は、一、二番で家庭の現況を伝え、三番で父の武運長久を祈り、四番で<大きくなったら兵隊さん、嬉しいな>と決意を述べた。子どもの心になりきった『斎藤』の目には涙が溢れていたという。夜空は満点の星で月夜のようなだった。彼は作品に「星月夜」と名付け、作曲家の『海沼 実』に郵送した。 それから4年後、終戦となったがその12月、NHKから復員兵を迎える歌を依頼された『海沼』は、多くの原稿の中から「星月夜」を使うことを決め、『斎藤』と話し合い「一、二番は元のままで三、四番をカットし、三番に兵隊さんを迎える詞をつけ」題名も『里の秋』にしようと言うことになった。 こうして誕生した『里の秋』は12月24日、NHKのラジオ番組「外地引き揚げ同胞激励の午後」で、少女歌手川田正子によって歌われた。それは戦後父や夫、恋人を今か今かと待ち続ける人々の心をとらえ、大反響を呼んだ。NHKは「復員だより」という番組で流し続けた。

郷愁をよぶ情景と家族愛を感じさせる分かり易い歌詞は抒情的なメロデーと相俟って、戦争にうちひしがれた人々の心を癒した。そして現在に至るまで、未だに多くの人に愛唱され続けている。(参考資料:唱歌・童謡ものがたり)